

METHOD FOR PRODUCING (R)-4-CYANO-3-HYDROXYBUTYRIC ACID LOWER ALKYL ESTER

Patent number: JP2001122841
Publication date: 2001-05-08
Inventor: MATSUDA HITOSHI; SHIBATA
TOSHIHARU; TSUCHISADA HIDETAKA
Applicant: MITSUBISHI CHEMICALS CORP.
Classification:
- **international:** C07C253/34; C07C253/14; C07C255/20
- **european:**
Application number: JP19990303430 19991026
Priority number(s):

Report a data error here

Abstract of JP2001122841

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a method for efficiently producing the subject compound in high purity.

SOLUTION: This method for producing a (R)-4-cyano-3-hydroxybutyric acid lower alkyl ester comprises the following process: the objective reaction product is extracted several times using an organic solvent from a reaction liquid after cyanation of the corresponding (S)-4-halogeno-3-hydroxybutyric acid lower alkyl ester; wherein the extraction phases resulted from the 2nd extraction operation and thereafter are used as extraction solvent for other production lot(s).

Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-122841

(P2001-122841A)

(43) 公開日 平成13年5月8日 (2001.5.8)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマート* (参考)

C 0 7 C 253/34

C 0 7 C 253/34

4 H 0 0 6

253/14

253/14

255/20

255/20

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平11-303430

(22) 出願日

平成11年10月26日 (1999. 10. 26)

(71) 出願人 000003968

三菱化学株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目5番2号

(72) 発明者 松田 仁史

福岡県北九州市八幡西区黒崎城石1番1号

三菱化学株式会社黒崎事業所内

(72) 発明者 柴田 敏治

福岡県北九州市八幡西区黒崎城石1番1号

三菱化学株式会社黒崎事業所内

(74) 代理人 100103997

弁理士 長谷川 暁司

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 (R) -4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルの製造方法

(57) 【要約】

【課題】 (R) -4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルを高純度で、効率的に製造できる製造方法を提供する。

【解決手段】 (R) -4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルの製造方法に関し、シアノ化後の反応液から有機溶媒により生成物を複数回抽出するプロセスにおいて、2回目以降の抽出相を他の製造ロットの抽出溶媒として使用する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (S)-4-ハロゲノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルを水性溶媒の存在下、シアノ化反応に付し(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルを製造する際、シアノ化後の反応液から有機溶媒により生成物を複数回抽出するプロセスにおいて、2回目以降の抽出相を他の製造ロットの抽出溶媒として使用することを特徴とする(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルの製造方法。

【請求項2】 水性溶媒が、水又は水と水溶性有機溶媒との混合物であることを特徴とする請求項1に記載の製造方法。

【請求項3】 水溶性有機溶媒がアルコール類、酸アミド類又はニトリル類であることを特徴とする請求項2に記載の製造方法。

【請求項4】 有機溶媒が、酢酸エステル類、ハロゲン化炭化水素類、芳香族炭化水素類、ケトン類又はエーテル類であることを特徴とする請求項1ないし3のいずれかに記載の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルの製造方法に関する。詳しくは、(S)-4-ハロゲノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルをシアノ化して(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルを製造する方法に関する。本発明により得られる(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルは、種々の医薬中間体として有用であり、例えば、3-ヒドロキシ-3-メチルグルタリル補酵素Aリダクターゼ(通常「HMG-CoA」と略記される)の阻害剤[R-(R*, R*)]-2-(4-フルオロフェニル)-β, δ-ジヒドロキシ-5-(1-メチルエチル)-3-フェニル-4-[(フェニルアミノ)カルボニル]-1H-ピロール-1-ヘプタン酸カルシウム塩(2:1)の重要な中間体として用いることができる。

【0002】

【従来の技術】(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステル類の合成法としては、L-アスコルビン酸に過酸化水素と炭酸カルシウムを反応させて得られるL-スレオニンカルシウム塩-水和物(Carbohydrate, Res., 72, 301(1979))やL-アラビノースに臭化水素を作用させたジブrom体をブromヒドリンとし、(S)-4-ブromo-3-ヒドロキシ酪酸メチルエステルに導いた後(Acta Chem. Scand. B37, 341(1983))、水酸基をテトラヒドロピラニル、トリアルキシル、アルキルなどの保護基で保護してから、ジメチ

ルスルホキシド中で青酸ソーダを反応せしめる方法(米国特許第4,611,067号明細書)、ジケテンから得られる4-ハロゲノアセト酢酸もーブチルエステルにルテニウム-光学活性ホスフィン錯体を用いて不斉水素化反応を行って(S)-4-ハロゲノ-3-ヒドロキシ酪酸もーブチルエステルとした後(特開平1-211551号公報)、非プロトン性極性溶媒中でシアノ化剤との反応を行う方法(特開平5-331128号公報)等が知られている。

【0003】以上のような報告例のうち、前者の方法は原料として光学活性体を使用し、複数の反応を経た後に水酸基の保護と脱保護工程が必要であり、工程数が多く工業的製法とは言えない。また、後者の方法は、不斉水素化反応によって得られた原料の光学純度が約92%eと低いため、高い光学純度を要求される医薬中間体として使用するためには、生成物をシアノ化反応液から有機溶媒により抽出して水洗後、溶媒を留去し、得られた残さを有機溶媒により再結晶して光学純度を向上させる必要がある。

【0004】これらの方法とは別に、ジケテンから得られる4-ハロゲノアセト酢酸低級アルキルエステルに微生物を用いた不斉還元反応を行うことにより(S)-4-ハロゲノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルを得る例が多数報告されている。当初は、不斉還元反応における光学純度が92~95%eと不十分であったが(特開昭61-146191号公報)、優れた微生物の発見により98~99%eの光学純度が得られるまでになった(特開平8-336393号公報)。微生物により反応を行った場合の一般的な手法として、反応後、生成した(S)-4-ハロゲノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルは、遠心分離等による除菌後、反応液から酢酸エチル、塩化メチレン、トルエン、ジエチルエーテル等の有機溶媒を用いて抽出した後、有機溶媒を留去しカラムクロマトグラフィーや蒸留等の操作により、純品として単離することができる。単離された(S)-4-ハロゲノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルは、前述のシアノ化反応例に倣い、水酸基を保護した上でジメチルスルホキシド中でシアノ化反応を行うか、そのまま非プロトン性溶媒中でシアノ化反応を行うことにより、又は、そのまま他の溶媒中でシアノ化反応を行うことにより(特表平7-500105号公報)、(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルが得られる。そして、これらのシアノ化反応液から、高純度の(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルを単離するためには、通常、適当な溶媒で抽出した後、濃縮及び減圧蒸留による精製が行われていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかし乍ら、本発明者らの追試によれば、(S)-4-ハロゲノ-3-ヒドロ

から逕過を行う。逕過を効率的に行うには、珪藻土等の逕過助剤の添加が有効である。逕過された水相と有機溶媒相の混合物は、比較的短時間の静置時間をとることに より明瞭な界面を示し、目視により容易に分液操作を行 うことができる。以上の操作により分液された有機溶媒 相から、一般的な減圧濃縮により、目的とする(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルの粗製濃縮液を得ることができる。また、減圧濃縮時に 留出した有機溶媒は、そのまま、抽出用の有機溶媒とし て使用可能である。

【0012】

【実施例】以下、実施例により、本発明を詳細に説明す るが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではな い。

(実施例) 冷却装置付きの還流凝縮器を接続したガラス 製反応容器に、(S)-4-クロロ-3-ヒドロキシ酪 酸エチル150gと水450gを添加し、撹拌しながら 約85℃に昇温後、青酸ソーダ57gと水150gから なる溶液を1時間に渡って85~90℃の温度範囲で連 続して添加し、更に85~90℃の温度範囲で1時間の 熟成を行った後、室温まで冷却した。この反応液中に、 他の実験において3回目の抽出相として得られた酢酸エ チル300ml((R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ 酪酸エチル4gを含む)を加えた後、市販の珪藻土(昭 和化学工業(株)製 ラジオライト#700 平均粒子 径23μm)2gを加えて30分間撹拌後、東洋逕紙 (株)製の定量逕紙No. 5C(保留粒子径1μm)を 使用して、減圧下に逕過を行った。次に、逕過された水 相と有機溶媒相の混合物を30分間静置し、有機相と水 相に分液した。この水相に、酢酸エチル300mlを加 え30分間撹拌の後、30分間静置し、有機相と水相に 分液した。1回目の抽出相340ml((R)-4-シア ノ-3-ヒドロキシ酪酸エチルを66g含む)と2回 目の抽出相310ml((R)-4-シアノ-3-ヒド ロキシ酪酸エチルを12g含む)を混合し、総量650

mlの抽出相をエバポレーターにて減圧下に濃縮を行 い、(R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸エチルを 78g含有する粗製濃縮液97gを得た。濃縮条件は、 減圧度が約100torr、バス温度が約50℃で、濃 縮に要した時間は1.5時間であった。使用した電気機 器は、EYELA製ロータリーエバポレーター NE- 1(定格 100V、12A)、EYELA製ダイアフ ラム型真空ポンプ DIVAC2.2L(定格 100 V、4A)、EYELA製真空制御ユニット NVC- 1100(定格 100V、1A)、EYELA製冷却 水循環装置 クールエースCA-1110(定格100 V、11A)であり、推定の所要電力は1.7kWHであ る。

【0013】(比較例)抽出用の有機溶媒として、未使 用の酢酸エチルのみを用いた抽出を3回行う以外は、実 施例と同様にシアノ化反応液及び抽出操作を行った。1 回目の抽出相340ml((R)-4-シアノ-3-ヒ ドロキシ酪酸エチルを62g含む)、2回目の抽出相3 10ml((R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸エ チルを12g含む)及び3回目の抽出相300ml ((R)-4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸エチルを4 g含む)を混合し、総量950mlの抽出相をエバポレ ーターにて減圧下に濃縮を行い、(R)-4-シアノ- 3-ヒドロキシ酪酸エチルを78g含有する粗製濃縮液 97gを得た。濃縮に要した時間は2.2時間であつ た。推定の所要電力は2.5kWHである。

【0014】

【発明の効果】本発明においては、(S)-4-ハロゲ ノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステルを、水性 溶媒中にて青酸ソーダ等のシアノ化剤でシアノ化後、適 当な有機溶媒で抽出し、濃縮することにより粗(R)- 4-シアノ-3-ヒドロキシ酪酸低級アルキルエステ ルを得る際、2回目以降の抽出相を他の製造ロットの抽出 溶媒として使用することにより、濃縮操作に要する時間 とエネルギーを大幅に削減することができる。

フロントページの続き

(72)発明者 土定 秀隆
福岡県北九州市八幡西区黒崎城石1番1号
三菱化学株式会社黒崎事業所内

Fターム(参考) 4H006 AA02 AC54 AD16 BB11 BB12
BB14 BB15 BB16 BB17 BB20
BB21 BB31 QN14